（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	あんプラス三ノ輪

公表日　2026年　10月　30日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		机や椅子の配置を調整し、活動に応じたスペースを確保できるようにしている	大きく身体を動かすような活動は難しい
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	4		余裕を持った人員配置を心がけている	体調不良等で急な欠員が出てしまうと余裕を持てないことがある
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		子供たちにもわかりやすいよう構造化するよう心掛けている	段差は少ないが、手すり等は設置されていない
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		清掃は毎日行っている	椅子・机の大きさが小学校低学年などの身体の小さい子供には大きい
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	1	個別に机を配置して使えるようになっている	完全に一人になれる場所はあまりない
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4		毎日のミーティングや個別の面談等で行っている	請求事務等において業務改善の余地がある
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		保護者アンケートに基づいた分析・ミーティングを行っている	保護者支援プログラムや保護者会と言った活動については検討に留まっている
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		毎日のミーティングや定期的な面談を行っている	できる限りの業務改善につなげるよう心掛けてはいるが、つなげきれていないものもある
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4		第三者による外部評価については状況に応じて検討を行う
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		内部研修を定期的に行っており、外部の研修にも参加している	研修で身に付けたことを実際の業務に活かせるようフォローを行う
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		ホームページで概要を公表している他、毎月の活動も公開している	保護者にも子供にもわかりやすいように公表する。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		定期的に面談を行っている	定期面談のみではなく、日々のやり取りを通してニーズや課題を把握できるよう努める
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		毎日のミーティングの他、モニタリング等を通して検討している	子供にとって最善の利益になるよう検討の余地はある
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	4		計画を周知し、計画に沿って支援していけるようミーティングを行っている	出勤数の少ない指導員に対しても適切に共有を行う
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		日々の行動や活動の状況については記録を行い、ミーティングでも共有している	記録する内容の拡充を行うとともに、フォーマルアセスメントの活用を検討する
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		ガイドラインに沿って計画を作成している	地域支援・地域連携については要検討
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		職員全体でミーティングを行い立案を行っている	出勤のタイミングによってはうまく意見が反映されないことがある

援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		様々な活動を組み合わせ、幅広く経験を積めるよう設定している	長期的にみると似たような活動に偏ってしまう部分がある
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4		平日は個別活動と集団活動を組み合わせて支援を行い、土・祝日は集団活動を中心に行っている	平日の集団活動の内容を拡充させる
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		支援開始前にミーティングを行い、当日利用予定の子供や活動の内容を確認している	マンツーマンでの支援中の内容について、状況に応じたフォローアップを行う
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	4		支援終了後に特に注意が必要な状況について共有を行っている。	活動中の細かい状況などは管理表での共有に留まっている
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		個人ごとに支援記録ファイルを作成している	生活面や全体活動中の細かな記録についてはより徹底して記録をとる余地がある
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		定期的にモニタリングを行っている	余裕をもったスケジュールでモニタリングを行う
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	4		様々な体験を積めるよう複数の活動を組み合わせている	ボランティアの受け入れなど地域との交流については検討が必要
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		子供の状況に応じて自己選択ができるような活動を取り入れている	自己決定が難しい子供に対して、決定する経験を積めるよう余裕を持った活動を行う
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	1	モニタリングの際には状況をよく理解した者が相談支援員とミーティングを行っている	サービス担当者会議や関係機関との会議に参画する機会がない
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		協力医療機関は整備している	福祉・教育機関との連携については検討を行う
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。		4		学校との直接の情報共有は行っておらず、年間計画等は保護者とのやり取りに留まっている
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	1	児童発達支援事業所から情報提供を受けている子供もいる	必要に応じて情報共有が行えるよう努める
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4		保護者からの依頼に応じて情報提供を行っている	卒業する子供の保護者に対しては、情報提供について説明を行う
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。		4	開催される研修を受講する機会はある	児童発達支援センターとの直接の連携については要検討
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		4		保護者からの要望があれば検討を行う
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	3	人員に余裕がある際には自立支援協議会の傍聴など参加するようにしている	責任者以外の職員も参加する機会を検討する
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		連絡帳を通じて共有するほか、お迎えの際やライン等を活用し共有を図っている	保護者と直接会話できる時間が限られてしまっている。一人帰りの子供の場合は連絡帳でのお知らせが中心。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		4		家族支援プログラムや情報提供の機会については検討を行う
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		契約時に説明を行うほか、実費等については必要に応じてお便りを配布している	イベントごとの費用設定など、保護者にわかりやすい説明を心がける
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		定期的に面談を行っている	面談以外でも子供や家族の意向を確認する機会を検討する
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	4		面談時に支援内容を相談している	保護者により分かりやすいように方法を検討する

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		面談時や状況に応じて行っている	相談しやすい環境を整えるとともに、適切な助言や支援を行えるよう努める
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		4		保護者からの要望があれば検討を行う
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		苦情受付の体制は整備しており、苦情があった場合はすぐに共有し対応を行っています	苦情がないよう運営を行う。また、苦情があった場合は迅速に対応を行う
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		月報を毎月作成し、配布している。また、SNSも活用して活動状況を発信している。	行事予定を余裕をもって発行する
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		個人情報が含まれるものは鍵付きキャビネットで管理している。	子供の利用中に他児の名前が目に触れないよう留意する
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		デジタル機器やメッセージシステムを利用している	電子機器の使用が難しい方にも迅速に情報伝達を行う
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4		ハロウィンウォークなどイベントに協力してもらっている	地域住民を招待できるようなイベントについては今後必要に応じて検討を行う
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		各マニュアルを策定し、入り口付近に設置している。また定期的に訓練を行っている。	新しく入った職員に対してもマニュアルの周知を行うとともに、訓練の内容が固定化されないよう留意する
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		BCPを策定し、避難訓練を行っている	救出など、避難以外の訓練の拡充を検討する
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		服薬や発作のあるものについては契約時のアセスメントシートで確認している。適宜保護者からの連絡を受けている。	予防接種についての確認を検討する
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		4	食物アレルギーについてはアセスメントシート等を用いて保護者から聞き取りを行い対応している。	医師の指示書に基づいた対応が必要な状況になっていないが、指示書が出た場合の対応については検討を行っている
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		計画を作成し、必要な措置を講じている	怪我など、予想される危険と活動の自由度のバランスについて検討し、活動内容を調整する
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	4		入り口付近に設置し、いつでも閲覧できるようにしている。	引き続き周知を行う
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		ミーティングでヒヤリハットを共有し、再発防止を検討している	再発防止策についての周知を徹底するとともに、再発防止策が有効に行われているかを継続的に確認する
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		定期的に研修を行っている	子供へ適切な対応ができるよう、日々のミーティング等を通して常時確認を行う
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		個別支援計画に記載している	契約時以外にも、必要に応じて説明を行う